

(参 考)

1 . EANET 発足の背景

東アジア地域における近年のめざましい経済成長やそれに伴うエネルギー消費（石炭や石油の燃焼）の増加により、酸性雨の原因となる硫黄酸化物や窒素酸化物の排出量が増加の一途をたどってきたが、今後もさらなる増加が予測されており、近い将来、酸性雨による影響が深刻なものとなることが懸念されている状況。

このため、東アジア地域における酸性雨の現状やその影響を解明するとともに、この問題に対する地域協力体制の確立を目的として、各国の自主的な参加、貢献の下で2001年1月からEANETが本格稼働を開始。

EANETは、これまで財政面・技術面ともに日本が主体となって進めてきた取り組みであり、1993年から専門家会合を通じた議論が積み重ねられた後、1998年3月には第1回政府間会合（横浜）が開催され約2年間の試行稼働が決定され、2000年の第2回政府間会合（新潟）において2001年1月からの本格稼働が決定。我が国としてはEANET活動の基盤が確立されるとともに将来的な発展・拡大により、酸性雨対策に向けた当該地域における国際協力が推進されることを重要視。

2 . EANET の概要

(1) 参加国

カンボジア、中国、インドネシア、日本、ラオス、マレーシア、モンゴル、フィリピン、韓国、ロシア、タイ、ベトナムの計12ヶ国
(なお、当初の参加国は10ヶ国であり、新たに2001年にカンボジア、2002年にラオスが参加。)

(2) 活動目的

東アジア地域における酸性雨問題の状況に関する共通理解の形成促進。
酸性雨防止対策に向けた政策決定に当たっての基礎情報の提供。
東アジア地域における国際協力の推進

(3) 主な活動内容

共通の手法を用いた参加国による酸性雨モニタリングの実施

- ・ 湿性沈着モニタリング（降雨のpH測定等）
- ・ 乾性沈着モニタリング（酸性ガス等の測定）
- ・ 土壌／植生モニタリング（森林生態系への影響観測）
- ・ 陸水モニタリング（湖沼生態系への影響観測）

モニタリングデータの収集／解析／評価／提供

モニタリングの精度保証／精度管理

酸性雨問題に関する科学的課題の調査研究

(4) 実施体制

政府間会合 (IG): 参加国代表からなる意志決定組織

科学諮問委員会 (SAC): 科学者・専門家等からなる IG への助言機関

事務局: ネットワーク運営に係る事務・資金管理等を担当

(2001 年までは環境省 (地球環境局環境保全対策課) が暫定事務局を当、現在はバンコクにある国連環境計画アジア太平洋地域資源センター (UNEP/RRC.AP) が指定されている)

ネットワークセンター: モニタリングデータの収集・評価・提供、参加国に対する各種技術支援、及び調査研究の推進等 (新潟にある酸性雨研究センター (ADORC) が指定されている)

[EANET 実施体制の概念図]

